

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和3年12月28日(火)
- 3 開催形態 書面開催
- 4 参加者

会長	山口 智司	可児高校PTA会長	
副会長	三品 芳則	可児市立蘇南中学校長	
委員	松井 慶子	元可児高校PTA役員	
	市原 崇光	可児市商工会議所副会頭	
	千束 綾子	可児市役所産業振興課主任	
	菰田 さよ	可児市国際交流協会	
	杉浦 浩子	岐阜医療科学大学看護学部学科長	
	水野 秀光	坂戸地区自治会長	
	学校側	総山 俊行	校長
		大野 広喜	事務長
	林 辰郎	教頭	
	田内 俊文	教務主任	
	小栗 和成	生徒指導部長	
	内藤 崇	進路指導部長	

5 会議の概要(協議事項)

(1) スクール・ポリシーの策定について

意見1：生徒が、開校時からの「清新はつらつ」の校風と、「自ら」の精神をしっかりと守りながら、未来を切り開く糧となるものを自身の中に築くことができ、また、卒業後も誇りと愛着を持ち続けられるような高校であってほしい。

意見2：3つの方針の下で生徒自らが「社会に出て、人としてどうあるべきか」を考え、成長していくことを期待する。

意見3：本校の伝統的な進学校としての姿勢を汲みながら、現在求められる高校像を目指した内容になっている。

意見4：教育目標の理念はよくわかる。その理念と生徒たちの本校で学びたいという思いをどのように近づけるかが大切である。地元の学校として魅力と活力あふれる学校となつてほしい。

意見5：日々の学習はもちろん、ICTやはつらつ講座などの学びも経て、自らの力にして進路選択をすることで、本校を卒業することに誇りを持ち、将来の一步を進む可児高

生が想像できる。

意見6：GP（グラデュエーション・ポリシー）では、「主体性や課題探究能力」、「コミュニケーション能力とリーダーシップ」、「社会性と人間性」が示されている。それに呼応してCP（カリキュラム・ポリシー）が設定されると考えると、コミュニケーション能力をどのように育てるかが抜けているように思う。

意見7：生徒、保護者のアンケートから、本校が進学校として認識されており、進学に向けての学力向上が期待されていることが窺える。それに対して、CPは「個々の生徒に応じた手厚い指導によって基礎学力を定着」「探究的な学びの視点を全教育活動に位置付け」とあるが、もっと本校としての特徴が打ち出せるとよい。

意見8：AP（アドミッション・ポリシー）にある「自らの可能性を伸ばす向上心」、「国際社会で自らの能力を発揮する意欲を持つ」、「コミュニケーションの大切さ、公正さと正義感、思いやりに満ちた人間関係で自ら力を伸ばしたい」と考える生徒の育成をお願いしたい。

（2）県立学校体育施設開放について

意見1：開放することは、地域社会との連携を深める意味で良いと思うが、これにより学校側の負担が増えてしまわないかという点を心配している。学校に業務の繁雑さが生じないように望む。

意見2：学校体育施設開放の趣旨には賛同するが、施設の開放が、学校と地域の連携を深める一つの契機というよりは、単に地域スポーツ環境の確保に重きが置かれているように感じる。

意見3：近隣に可児市運動公園があり、高校としての開放は考える必要はない。

意見4：隣県では施設開放が進んでいる。地域や地元との関係を深めるためにも体育施設の開放を実施することは大切である。また、想定外の自然災害が起こった場合にも、こうした取組が生かされるのではないかと。

意見5：開放することで、地域に開かれた学校であることが印象付けられるし、地域の方々に学校を理解していただくよい機会である。

意見6：活動・利用できる場所が増えることは、一市民として嬉しい。利用される方が増えることで、子どもからお年寄りまで、本校の存在と学校の様子を多くの人に知ってもらえることに繋がるとよい。

意見7：可児市は総合型スポーツクラブがあり、小中学校の施設開放事業を行っているので、高校の施設もそこに加えることはできないか。

（3）生徒及び保護者等を対象とするアンケートについて

意見1：生徒の回答から、学習指導・生徒指導において、先生との信頼関係が築かれていると感じられ、保護者として嬉しい。日々の熱心な取組に感謝したい。

意見2：概ね生徒からも保護者からも好意的な評価を得られている。特に健康・安全、生徒指導など生活環境への対応について高く評価されていることに安心した。生徒の生活環境を整えていくことが、心の安定や意欲にもつながっていくものであり、大切である。

意見3：生徒対象アンケートの「家庭で学校に関する話をしている」が82%であることは、いい意味で驚いている。かつて、PTA総会には、体育館がいっぱいになる程の保護者が出席されていて、この様子こそが本校の財産だと思う。

意見4：生徒の学力の担保は必須であり、生徒、保護者の満足度の向上にはそれ以上のものが求められている。生徒は、学校生活が充実したものとなること、保護者は将来役に立つ力が身に付くことを望んでいる。双方に必要なのは、総合的な探究活動を通じコ

コミュニケーション能力やリーダーシップが養われることである。

意見5：先生方への評価、授業内容の高評価から、日々の学校へのモチベーションがあることが感じられ、とても大切である。

意見6：学習指導について、生徒、保護者の多くが好評価しているにもかかわらず、学習塾の必要性を感じている割合が高いので、何が問題なのかを分析する必要がある。

意見7：本校の生徒も保護者も勉学への意識が高いため、塾など学校外の勉強の時間を設けることで少しでも安心できるのではないかと。

意見8：「入学できてよかった」とあまり思えない生徒が2割強いるのは、何が原因なのか、もう少し突き詰める必要がある。第一志望で入りたい生徒を増やすにはどうすればよいかということである。

意見9：以前と違って、現在の本校は学力差が大きい集団になっているのではないかと推測する。大学もそうだが、学習面で満足度が低い学生は、成績が下位である傾向があるので、成績が芳しくない生徒への支援が生徒や保護者に明確に分かる形になるとよい。

6 会議のまとめ

- ・スクール・ポリシーの案に対して、修正点や感想を出され、完成に向けて検討された。第3回学校運営協議会で承認を受ける予定である。
- ・県立学校体育施設開放についての意見が出された。施設開放の趣旨は理解されメリットもあるものの、学校の業務負担などを心配する意見もあった。
- ・生徒・保護者のアンケート結果から、概ね学校運営が順調に進んでいる印象である。ただ、本校への入学や本校での学習に好印象をもてない生徒が一部いることに対しては分析が必要である。